

国家避暑地と世界遺産 承德市

承德市は河北省の所轄している市の一つで、河北省の北東部にあります。約 20 平方キロメートルの市内の常住人口は 30 万人あまりです。

避暑山荘の建て始めは清王朝の康熙皇帝 42 年(1703 年)から、乾隆皇帝 57 年(1792 年)まで、89 年間をかけ、建て続けられました。

その後の 2 百年間で、この地は北京の紫禁城について、清時代の第二の政治の中心地と見なされました。敷地面積は 564 ヘクタールです。中には、厳かな宮殿区、湖景色、谷間交錯の山地、生い茂った草原が配置され、中国国内で残された最も完璧で、規模の一番大きい皇室庭園といわれています。1994 年、避暑山荘及びその周辺の寺院はユネスコによって世界文化財リストに収められています。



(芝径雲堤)



(煙雨楼)

普寧寺は俗に「大仏寺」と言われ、乾隆皇帝が承德市に建てた最初の廟宇です。避暑山荘の北東辺りに点在する建築群は、外八廟と呼ばれ、それらのお寺は康熙 52 年(1713 年)から乾隆 45 年(1780 年)にかけての 67 年間、工事し続けられました。もともと十二基の廟宇を建立した八箇所には、ラマ僧が住んでいましたが、後にさまざまな災害で焼失したり、倒壊したりし、現在まで残されているのは 7 基だけです。中国において最も規模の大きな古代建築群のひとつだと言われています。

普陀宗乘と言われる廟宇は、1767 年に建て始め、1770 年に完成しました。敷地面積は 22 万平方メートルで、外八廟の中でも一番大きいお寺です。こちらは重要な宗教式典や、臣下との会見を行ったところです。「普陀宗乘」はチベット語で「ポタラ」の意を示し、チベット、ラサのポタラ宮を真似て建立したものです。この小ポタラ宮は五世ダライラマの一時住まいとして、1770 年に乾隆皇帝の 60 歳の誕生日を祝い、加えて、翌年の乾隆帝の母 80 歳の誕生日祝いに、内外モンゴル、青海、新疆からの少数民族首領の祝賀招待のために、建立したので「小ポタラ宮」とも呼ばれているのです。



(普陀宗乘之廟)

他の観光スポットとしては、金山嶺万里の長城、大自然の巧みさを見せてくれる双塔峰、磬錘峰（けいすいほう）（石柱）、広大な皇室狩猟場——木蘭囲場などもとても人気です。



(金山嶺万里の長城)



(双塔峰)



(磬錘峰)



(木蘭囲場)